

第1 3分科会 特別支援教育

アスペルガーとADHDをあわせ持つA児の体と心（気持ち）の  
コントロール力を高めるための指導  
——— 自立活動を通して ———

1. 設定の理由

本特別支援学級に在籍しているA児は、アスペルガー・ADHDの診断を受けている。人なつっこく、アイデア豊富な子である。反面いろいろな刺激に過敏に反応してしまい、衝動的な行動が多い。自分で自分の行動を止められないために注意を受け、その場から逃げてしまったり、暴言を吐いてしまったりする。そして、叱責を受けることにつながってしまう。

また、走ることや跳ねることなど高い能力を持っているが、跳び箱やハードルなど道具を使う種目になると力が発揮できず体の不器用さが目につく。

そこで、自立活動の時間を設けて、A児の実態から、身体意識を感じ取る活動や心（気持ち）の安定をはかる活動を取り入れた。自立活動の取り組みを積み重ねることにより、自分の体が動く感じや自分の気持ちの状態を自分自身で意識でき、自らを振り返る態勢づくりができると考えた。

そうすることで、周囲の状況に合わせたよりよい行動がとれるようになり、自分に自信を持ったり、誉められたりする経験が増え、落ち着いた学校生活ができるであろうと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

○自立活動の時間に、身体意識を感じとる活動や気持ちの安定をはかる活動を取り入れれば、自分の体と気持ちをコントロールする力が高まり、望ましい行動がとれる場面がふえるだろう。

3. 研究内容

- (1) 自立活動の指導内容の作成
- (2) 体と心とコミュニケーションの実践
- (3) 実践の結果と考察

4. 結論

本人は、原因までは意識できないが、不安や落ち着かなくなる心（気持ち）の状態を感じ取り、誰かの声掛けにより衝動的な行動を踏みとどまったり、誰かに相談したりするなど、より良い行動がとれるようになってきている。